

心に優しさが満ちてくる ふるさと、いいやま

千曲川のほとりに佇む
「日本のふるさと」

飯山市は、長野県内で最も低い千曲川沖積地に広がる飯山盆地を中心に、西に関田山脈・東に三国山脈が走る南北に長い地形で、多くの自然資源に恵まれた地となっています。

古くから山国信州と日本海を結ぶ交通の要所として栄え、塩、魚などの海産物の集散地として重要な役割を担ってきました。

戦国時代には、上杉謙信の川中島出陣の際の前線基地として、戦略的にも重要な地となり、永禄7年(1564年)には千曲川左岸に飯山城が築かれ、城下町としての体を成しています。

城下町に佇む神社群や、雁木の町並みから、「雪国の小京都」とも



正受老人が座禅ざんまいを送った正受庵

呼ばれ、江戸時代から続く寺町文化・雪国らしい連帯と協調の精神が築き上げられ、正受老人が座禅ざんまいを送った禅庵の正受庵をはじめとする寺社などから「いいやま」の歴史を知ることができます。

日本有数の豪雪地帯としても知られる本市は、厳しい自然があるが故に四季の彩りが増し、美しい自然が今も保たれています。飯山



高橋まゆみ人形館の作品「母の手」©高橋まゆみ人形館

か1年半で30万人を超える皆さんに訪れていただいています。ふるさとの里山や農村などで暮らすおばあちゃん、おじいちゃんたちの何気ない日常の風景を表した人形たちが、訪れた人々を、昔懐かしいふるさとへの思い、温かく優しい気持ちで包んでくれます。

3年後の北陸新幹線飯山駅 開業を目指して

平成27年3月には北陸新幹線飯山駅が開業します。新幹線を迎えることは市民にとって長年の悲願であり、飯山やその周辺地域にとっても、発展へ向けたターニングポイントとなります。

新幹線飯山駅開業により、東京まで1時間50分、金沢まで1時間

の距離となります。新幹線開業の一番大きな利点は、やはり観光的活用にあります。もちろん交通の便は飛躍的に向上しますし、市内産業などへの効果も期待できます

が、新幹線飯山駅で降りてくれる人が少なくはならないようありません。そこで、飯山の歴史的な価値を見だし、飯山の魅力を創出または再発見し、町並みを整備するなど、回遊性のあるまちを実現するため、平成22年11月に「まちづくり課」を設置。平成23年2月に発足した有識者で組織する「まちづくりデザイン会議」により、まちなか観光の方向性について、「飯山市の豊かな自然資源を活用した、きれいで環境の良い、歴史や文化を感じられるまちづくり」との提言をいただきました。

四季の変化の素晴らしさを活用した飯山独自のまちづくりのため、まちの中に借景(山や社寺建築を背景とした庭園の技法)が見え、まちの中でも季節の変化を感じることができるよう町並み整備が必要です。それには、住民の皆さんとともに考えながら、事業を推進していくことで、飯山らしい景観などが出来上がると思います。

に遅い春を告げる桜や菜の花、ブナの森が芽吹き、新緑へと移る夏、自然の恵みに抱かれる秋、そして一面の銀世界の冬と1年を通して楽しむことができます。南北に連なる山々は、冬に積もった雪を水として蓄え、それが川や地下水となって里へ運ばれ、品質の高い評価をいただいている飯山産「コシヒカリ」などの農産物をはぐくみます。四季を彩る里山と里に広がる田園風景は、失われつつある「日本のふるさと」の原風景ともいえるべきところです。

あなたのふるさと探しを 応援します

本市は、昭和40年代に約4万人であった人口が、現在は約2万3000人まで減少しています。そこで、この深刻な人口減少に歯止めを掛けようと都市部の方々の間で根強

国際的観光リゾートを目指して、広域観光連携を

新幹線飯山駅は、本市近隣だけでなく、志賀高原や、妙高高原などの信越高原の中心であり、それぞれの観光エリアへの拠点駅としての機能を持ちます。それぞれの市町村ごとに魅力的な観光ポイントを充実させることや食の提供、サービスのレベルを上げることがもちろんですが、広域の観光レ

い人気のある「田舎暮らし」を支援するため、平成18年に「いいやま住んでみません課」を設置しました。いいやま住んでみません課では、大都市で本市をPRするためのセミナーを行い、市内の古民家などを活用して住宅のあっせんや、一時的な滞在からやがては長期的な滞在、そして定住へと段階的に地域になじんでもらうための体験事業を実施しています。例えば、本市での暮らし方をレクチャーする「飯山まなび塾」や、JAの全面的な協力を得て、農業の楽しさや喜びを学ぶ「百姓塾」を実施しています。その結果として、現在では約100世帯、300人の方々に、移住していただいています。

懐かしさを感じさせる 素朴な人形たち 「高橋まゆみ人形館」

高橋まゆみ人形館は、まちなか観光の核として、平成22年4月にオープンしました。開館からわず

ジャージゾーンとして情報を発信し、周辺地域全体のイメージアップのため、広域観光組織の連携が重要となります。そこで、平成24年1月31日に、信越9市町村(飯山市、中野市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村、信濃町、飯綱町、新潟県妙高市)からなる広域観光連携会議が発足しました。国内はもとより海外からも多くの皆さんに訪れてもらうことができる国際的観光リゾートを目指します。

プロフィール

- ◆ 面積 202.32km²
- ◆ 人口 2万3765人
- ◆ 世帯数 8122世帯

〔将来都市像〕歴史と自然に彩られたふるさと飯山

〔まちの特徴〕千曲川のほとりに佇む神社群、雁木の町並みは、「雪国の小京都」と呼ばれる。3年後には、北陸新幹線飯山駅が開業予定

〔特産品〕飯山仏壇、内山紙、飯山産コ



飯山市長 足立正則



シヒカリ、グリーンアスバラガス、きのこ、信州みゆきパーク
〔観光〕戸狩温泉スキー場、斑尾高原スキー場、いいやま北電温泉ファミリースキー場、高橋まゆみ人形館、信越トレイル
〔イベント〕飯山城址桜まつり、いいやま菜の花まつり、いいやま灯籠まつり、千曲川河畔納涼花火大会、いいやま花フェスタ寺町花街道、いいやま雪まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

豊かなまち、環境文化都市 ちちぶを目指して

はじめに

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、震源地から遠く離れた秩父市においても、震災直後からその対応を余儀なくされました。震災により、市役所本庁舎、秩父宮記念市民会館の両施設が被災し、応急危険度判定を行った結果、「要注意」建物と診断され、市民の安全を優先して完全閉鎖することになりました。

本年は震災復旧・復興の年になることは間違いありませんが、歴史的円高と製造業を中心とした景気の冷え込みによる影響で、国内の経済状況は引き続き厳しくなることが予想されていることから、基礎自治体である本市の役割がこれまで以上に高まっていることを実感しております。

本稿では、私が基本理念として掲げる「豊かなまち、環境文化都市ちちぶ」を目指した取り組みをいくつかご紹介いたします。

定住自立圏構想

総務省が推進する地域振興政策である「定住自立圏構想」に基づき、本市と横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町は、ちちぶ定住自立圏形成協定を締結し、「ちちぶ定住自立圏」を平成21年9月25日に形成しました(全国で3番目、関東では初の定住自立圏形成)。これにより、1市4町が連携してさまざまな政策分野において事業を実施し、行政サービスの住民満足度をさらに高めていくことができるようになりました。今後、医療、保健福祉、教育、観光、ジオパーク、企業支援、企業誘致、有害鳥獣対策、地域プ

地域にある観光資源を生かす

秩父は都心から約80km圏内に位置しながら、豊かな自然と古くからの歴史・文化が残っており、それを生かした観光スポットや秩父札所、祭りなど観光資源が豊富

にあります。また、平成23年4月から、秩父が舞台設定のモデルになったアニメ『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』が放送され、放映直後から多くの人が「聖地巡礼」に訪れています。同年9月には、ジオパークに関する地域住民の活動などが評価され、地質遺産を地域活性化に生かす地域として秩父地域が「日本ジオパーク」に認定されました。これらの活動に共通しているのは、資源を新規にくつたのではなく、もともと地域にある資源が生かされ、それが外部で評価されていることです。秩父の観光資源にはまだまだ可能性が残されていると見ています。

今後、本市では「観光力の向上、観光資源と機構の充実」に重点を置き、各地区の観光関係者とともに勉強会や商品開発を通じて観光資源の体系化や再発掘を行い、併せて、観光ガイドなどの人材育成をすることで、最終的には、観光資源を総合的に打ち出す組織である



日本三大曳山祭の一つに数えられる「秩父夜祭」

「秩父地域おもてなし観光公社」の設立につなげていきたいと考えています。

環境立市ちちぶの推進

本市では、環境立市を掲げ、市民や事業者の参加・協働による「エコタウン秩父」づくりを目指しています。具体的には、太陽光、水力、木質燃料など地域の自然エネルギー資源の活用による「創エネ」と地元産LEDなどによる「省エネ」を推進し、併せて秩父産木造エコ

ハウスの開発普及など、山間地域ならではのエコタウン形成を進め、将来に向けて、地域のエネルギーへの安心・安全を確保しようというものです。

また、本市では地産地消型の再生可能エネルギー創生への取り組みと節電の推進を目指しています。具体的には、家庭における電力の自給自足を促し、CO₂排出削減はもとより、災害や停電時でも自活できる安心・安全なエネルギー利用を進めるため、太陽光発電を導入する市民に対して設置費用の一部を補助するとともに、地元企業の技術による小水力発電などの研究を通じ、創エネをさらに推進いたします。また、今後予想される厳しい電力事情から、引き続き節電を推進してまいります。さらに、創エネ、省エネ、蓄エネのほか、小地域で電力を融通し合うためのスマートグリッドについても、山間地域ならではの取り組みについて、調査研究をスタートしたいと考えております。

おわりに

本年は市長に就任してから4年目であり、まさに集大成の年です。



秩父市長 久喜邦康

〔特産品〕蕎麦、小昼飯、カエデ糖菓

〔市町村合併〕平成17年4月1日、吉田町、大滝村、荒川村と新設合併

〔まちの特徴〕周囲に山岳丘陵をめぐらして盆地を形成している。荒川によって市の中心部は東西に区分され、東部は市街地を形成しているが、地域の約87%が森林で、その面積は埼玉県の約40%を占めている都市

〔将来都市像〕豊かなまち、環境文化都市ちちぶ

- ◆ 面積 577・69 km²
- ◆ 人口 6万8259人
- ◆ 世帯数 2万6266世帯

プロフィール

私は本年の目標として、①市役所本庁舎および市民会館の建設、②旧秩父セメント第一プラント跡地への企業誘致とエコタウン秩父を目指すこと、③火葬場の建設の3つを掲げました。どの項目も50年、100年を見越した事業であり、秩父地域の厳しい経済状況から見ても、決して夢物語に終わらせて

はいけないと考えています。本市の職員には、常日ごろから、時代の変化に柔軟に対応しつつ、自らの目標と危機意識を持って、市民のために正面から政策課題に取り組むことを話しておりますが、まずは私が先頭に立ち、「敢為邁往」の精神でこれらを達成したいと考えております。

子、ちちぶ太白いもの菓子、ホルモン、ブドウ、イチゴ

〔観光〕羊山公園芝桜の丘、秩父ミュージアム、観光農園、秩父まつり会館、ちちぶ銘仙館、大滝温泉、龍勢会館、浦山ダム資料館、秩父ふるさと館、秩父神社、三峯神社、秩父札所

〔イベント〕秩父夜祭、龍勢祭、三峯神社のごもつともさま、山田の春まつり、芝桜まつり、白久の串人形芝居、秩父川瀬祭、小川の百八灯、浦山の獅子舞、奥秩父大滝紅葉まつり、賢川宿秋の縁側展、ちちぶ荒川新そばまつり



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

生涯健康で 安らかに暮らせるまち

津島

はじめに

津島市は、愛知県西部に位置し、木曾・長良・揖斐の木曾三川が流れる肥沃な濃尾平野の恵みと水陸の交通の便によって、古くから栄えてきました。



豊かな自然を生かし、人々の暮らしにゆとりと潤いを与える「天王川公園」

尾張の玄関口として栄え、「尾張の金銀はすべて津島を通る」と言われるほどでした。

尾張の織田信長が、天下布武の大事業を果たすことにも大いに貢献し、津島は「信長の台所」と言われました。

四季の催事

津島神社は全国3000社に及ぶ天王信仰の中心であり、隣接する天王川公園を中心に、四季折々に祭りや催事が行われ、多くの観光客でにぎわいます。

春 尾張津島藤まつり

津島は古くから「藤浪の里」と言われるほどの藤の名所で、東洋一の藤棚では、爛漫と咲く藤の甘い上品な香りに包まれます。

4月下旬から5月上旬には、頭

上に紫のカーテンが広がり、夜もライトアップされた幻想的な藤を楽しむことができます。

夏 尾張津島天王祭

室町時代末期から500年以上の伝統を誇り、日本三大川祭りの一つに数えられます。7月第4土曜日に「宵祭」が、翌朝に「朝祭」が行われます。津島神社の神事として雅びに、厳かに行われ、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

本年は、この天王祭の日に、東

日本大震災被災地域の復旧復興と全国の天王信仰関係者の絆を構築することを目的に、初めての「津島神社サミット」が開催されます。

秋 尾張津島秋まつり

約300年の歴史を持つ秋まつり、平成23年11月には、「津島市民病院改革プラン」の中間見直しを行い、内外のベクトルを合わせて、医療の質の向上と一層の経営改善を目指しています。

「健康なまちづくり」を進めるため、市役所でも、保健・医療・福祉・介護の「横断会議」を立ち上げ、市民病院をはじめとする医療関係者と広く連携し、糖尿病をはじめ

果、医師数が増加し、救急体制など、診療機能も充実し、看護師も増加し始めています。

プロフィール

- ◆ 面積 25・08 km²
- ◆ 人口 6万6349人
- ◆ 世帯数 2万5486世帯

〔将来都市像〕人を育み 想いをつなぐとともにつくり出す 住んでみたくなるまち 津島

〔まちの特徴〕健康推進都市

〔特産品〕あかだ、くつわ(津島神社門前土産物)、津島麩、太鼓



津島市長 伊藤文郎



〔観光〕津島神社、天王川公園、尾張津島観光センター、重要文化財・堀田家住宅

〔イベント〕尾張津島藤まつり、尾張津島天王祭、尾張津島秋まつり、津島神社初詣・開扉祭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

備されましたが、多くは老朽化し、これら社会資本の再整備が喫緊の課題であります。

こうした歴史・文化を大切にしながら、産業の振興、地域の発展を図るため、平成23年度に「第4次総合計画」をスタートさせ、「人を育み 想いをつなぐ」ともに「住んでみたくなるまち津島」を目指しています。

市民と一緒に考え行動し、課題を解決し、身の丈に合った魅力あるまちづくりを推進していくため、本年度から「市民協働部」を設



津島神社の神事として、雅びかつ厳かに行われる「尾張津島天王祭」

17年度までに、全面改築・増築をし、440床の総合病院になりましたが、計画通りに医師が確保できないうちに、逆に医師数が急減し、平成19年度には、診療機能も経営も大変な危機に陥りました。

しかし、近隣病院、大学、地元の医師会、議会、住民の皆さま方に理解をいただいた結

りの主役は、絢爛豪華な16台の山車で、10月の第1土・日曜日に開催されます。どれも長い歴史を持つ文化財です。

冬 津島神社初詣・開扉祭

1460余年の歴史を誇る津島神社は、全国3000もの「津島神社」の総本社です。旧暦2月1日には、天夜を焦がす火祭り「開扉祭」が行われます。

身の丈に合ったまちづくり

本市は、昭和22年、愛知県下9番目の市として誕生し、本年で65年になります。かつては、毛織物産業で大いに栄え、発展しました。今は、流通業を中心とした第三次産業が集積していますが、名古屋近隣地域の特性を生かした新たな産業の創出が課題となっています。

毛織物産業で繁栄した時代に、旧市街地を中心に上下水道、福祉施設、公営住宅などがいち早く整

とする生活習慣病対策に取り組んでいます。

おわりに

祖先から受け継いだ自然、歴史、文化、そして何よりも人々のつながりは、本市の大きな財産です。この財産を大切に、市民と行政、地域にかかわるさまざまな市民の知恵と力を結集し、誰もが心豊かに、生き生きと健康で暮らせるまちの実現を目指してまいります。

わが

人の力・文化の力で ひと輝くげんきな沖縄市を！

チャンプルー文化を発信

沖縄市は、かつて戦後の沖縄を象徴する基地のまちといわれ、県内各地から多くの人々が生活の糧を求めて集まり、急速に都市化が進みました。そして、今なお市域面積の約35%を米軍基地が占め、基地から派生する事件・事故は、市民生活に不安と負担を与え、基地の問題はまちづくりにおいても大きな制約要因となっています。

一方、本市は世界40カ国余の国の人々が暮らす国際色豊かなまちであり、市民はアメリカ文化をはじめ異文化を積極的に受け入れ、伝統文化と異文化が融合する多彩でエネルギー豊かなチャンプルー文化を創造・発信してきました。その文化風土は、今日においても変わることなく、伝統芸能のエイ

サーをはじめ、ジャズ、ロック、ヒップホップ、民謡、島唄、琉球舞踊など、数多くの著名なアーティストを輩出するとともに、「芸能・音楽のまち」として、内外の衆目を集めています。

3つのまち宣言が開く未来

本市には豊かな芸能や音楽文化があり、沖縄県唯一の子どものための施設「沖縄こどもの国」をはじめ、沖縄県総合運動公園やコザ運動公園の公共施設が集積するなど、特異な資源が多くあります。それらの資源を生かし、沖縄市らしいまちづくりを推進していくために、本市は「エイサーのまち」(平成18年)、「こどものまち」(平成20年)、「スポーツコンベンションシティ」(平成8年)を宣言してきました。エイサーのメッカである本市で

は、毎年、30万人余の観客が訪れる「沖縄全島エイサーまつり」をはじめ、市内外の青年団体によってエイサーの醍醐味(だいごみ)が披露される「エイサーナイト」などを開催しています。また、エイサーは地域に根差した旧盆の行事として、青年団活動や地域コミュニティづくりを支えるなど、地域アイデンティティの要を成す文化的財産でもあります。

本市は15歳未満の年少人口の割合が全国の市の中でも極めて高く、市民全体で子育てをする、子どもに優しいまちを目指して、「こどものまち」を宣言しました。特に、「こどものまち」の拠点施設である「沖縄こどもの国」は、動物園やワンダーミュージアム、チルドレンズセンターなど、子どもたちが体験を通して、学び、豊かな感性を



「沖縄全島エイサーまつり」で踊る青年団

ぐくむ場であり、また、日本科学技術振興財団との提携により、子どもたちの科学力の向上を図る事業を展開しています。

そして、「こどものまち」を推進する重要な事業として、「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ(キジムナーフェスタ)」を開催しています。キジムナーフェスタは、毎年世界十数カ国の劇団が子どもたちの夏休みに合わせて本市にやって来て、親子で楽しめる質の高い舞台を繰り広げます。

本年は、演劇祭に加え、国際児童・青少年演劇協会(アシテジ)の「第1回世界ミーティング」の開催が予定され、児童青少年演劇のアジアにおける国際拠点としての役割を担っていくことに大きな期待を寄せています。

スポーツコンベンションシティへの取り組みについては、本市は沖縄の冬の温暖な気候と併せて、県や市の公共のスポーツ施設が集積し、県内で最もスポーツ合宿が盛んです。現在、広島東洋カープ



「沖縄こどもの国」でゾウと触れ合う子どもたち

のキャンプ地やF.C琉球のホームタウンとしての取り組みをはじめ、各種スポーツ競技や合宿などによるスポーツ都市づくりに力を入れているところです。

また、現在、国、県により埋め立てが進められている東部海浜開発事業(96ha)の推進を図り、沖縄県におけるスポーツコンベンションとしての重要な役割を担うとともに、雇用や産業の振興などを含め、スポーツを基軸とする本格的なまちづくりを展開していきます。

動き出した中心市街地 「市民色のまち」

これら3つのまち宣言は、それぞれが複合的に作用し合い、シナジー効果をもたらすとともに、本市まちづくりの課題である中心市街地活性化への具体的な展開を担う重要な要素となるものです。

本市は平成22年に県内では初めて中心市街地活性化基本計画の国の認定を受けて、向こう5年間の計画に基づき活性化のための事業を展開しているところです。中心市街地の活性化においては、商業空間のみならず、多面的な都市機能の向上を図るとともに、こ

れまで蓄積してきた地域資源を積極的に生かし、生活・文化創造の中心、人々の盛んな交流が生まれる「まちの顔」としての再生を目指し、「コザらしい生活ができるまち」商店街から交流街へを活性化のテーマとして取り組みを進めています。

今、本市の中心市街地は確かな色彩を放ちながら、新しい顔をつくりつつあります。それは、何よ

プロフィール

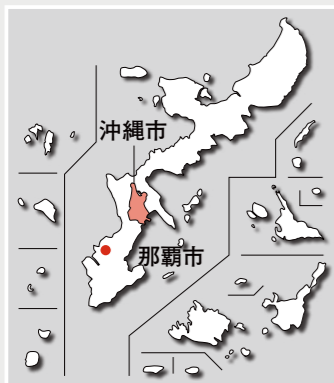
- ◆面積 49・00km²
- ◆人口 13万6525人
- ◆世帯数 5万4326世帯

〔将来都市像〕「沖縄市大好き！人・文化・環境をつなぐまち」国際文化観光都市

〔まちの特徴〕昭和49年4月にコザ市と美里村が合併し沖縄市が誕生。かつては嘉手納基地の門前町として急速に都市化が進み、戦後沖縄の象徴である特異なチャンプルー文化をはぐくんできた



沖縄市長 東門美津子



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。